


学年	教科等	単元名	日時
第5学年	音楽科	にっぽんのうた・みんなのうた	平成29年10月26日(木)5校時
<p>本実践では、「赤とんぼ」の1番から4番が同じ旋律と強弱記号であっても、情景によって表現の仕方が変わることを捉え、表現の違いによるおもしろさを感じ取らせることをねらっている。</p> <p><b>【音楽との出合わせ方の工夫】</b></p> <p>導入で、一定の速さで歌唱している演奏と、場面によってゆったりとした速さで歌唱している演奏を聴き比べさせる。そこで、「なぜ、歌手がゆったりとした速さで歌唱しているのか。」と問うことで、その場面に合った表現を考えていることや、速さの変化によって、曲の印象が変わることに気付けるようにする。そして、自分ならどのように表現したいか考えさせることで、本時の学習に意識が向くようにする。</p> <p><b>【音楽的な見方・考え方を働かせるための工夫】</b></p> <p>子どもが、強弱の変化について知性と感性を働かせながら捉えられるように、それぞれの場面の強弱の変化を視覚的に表していく。同じ強弱記号でも、歌詞の内容や情景によって表現の仕方が変化することに気付かせて、その結果を図で表すようにする。その際、多様な考えを表現していくことで、表現の工夫は一つではないことに気付かせ、互いの表現のよさを認められるようにする。</p>			

**音楽との出合わせ方の工夫**


**「赤とんぼ」の歌唱比較**



今から、二通りの「赤とんぼ」を聴き比べます。


**【1曲目】**  
「一定の速さ」で歌唱している演奏の鑑賞

**【2曲目】**  
途中からゆったりとした速さで歌唱している演奏の鑑賞



なぜ、2曲目の人は、ゆっくり歌っているのかな。

3番の悲しい思いを伝えたいのかな。



「赤とんぼ」の演奏の聴き比べをした後、歌手が速さを変化させることで、その場面に合った表現を工夫していることに気付かせた。「速さの他に工夫できる要素はないか」と尋ね、本時は強弱にしばって表現の工夫をすることにした。1番から4番までが、同じ旋律と強弱記号であっても、歌詞の意味や情景によって、強弱の幅が変わることを考えられるようにした。

**音楽的な見方・考え方を働かせるための工夫**



**【大まかな強弱の流れ】**

子どもが強弱の幅を考える際、1番から4番までの大まかな強弱の流れを右の図で表した。1番から4番までの図を準備し、1番を基準にして、2番から4番の情景に合った強弱の幅を考えられるようにした。

まずは、1番の表現を基準に考えてみましょう。



1番は固定して、2番から4番の図を動かせるようにした。

3番は悲しい思い出だから、1番より弱めに歌った方が、気持ちが伝わるかな。



2番は楽しい思い出だから、1番より強く歌うといいかな。



じゃあ、1番の図より上にくるね。

1番から4番まで、同じ強弱記号でも、歌詞の内容や情景にふさわしい強弱の幅を考えさせることで、表現の違いを感じ取ることはできた。しかし、音色等の要素の扱い方に課題が残った。また、子どもが場面の情景を基にして、自分ならこう歌いたい、という思いや意図をもたせることが足りなかった。今後、研究を深めたい。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

[miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp](mailto:miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp)

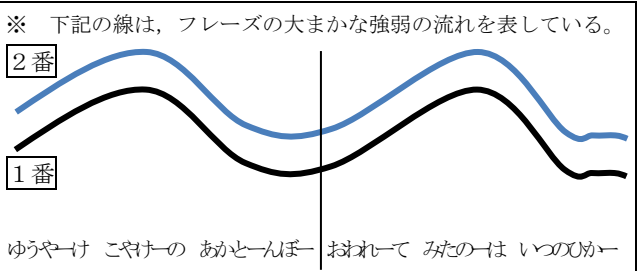

○ 指導計画（2時間）

- (1) 「赤とんぼ」の歌詞の内容を理解し、曲想を感じ取って歌唱する。 \_\_\_\_\_ 1時間  
 (2) 「赤とんぼ」のそれぞれの場面にふさわしい表現の工夫をする。 \_\_\_\_\_ 1時間（本時）

○ 本時の目標

「赤とんぼ」について、それぞれの場面にふさわしい強弱の変化を、考えることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「赤とんぼ」の演奏の聴き比べ</li> <li>○ 本時のめあて</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「赤とんぼ」のそれぞれの場面にふさわしい表現を考えよう。</p> </div> <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の工夫をするポイントの確認                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強弱</li> <li>・ 速さ</li> </ul> </li> <li>○ それぞれの場面の情景の確認                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読や歌唱</li> </ul> </li> </ul> <p>3 それぞれの場面に合った表現を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1番→2番→3番→4番                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強弱の工夫</li> <li>・ 速さの工夫 等</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 下記の線は、フレーズの大まかな強弱の流れを表している。</p>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「2番は楽しい思い出だと思うから、1番よりも少し大きめに歌うといいな。」                  「3番は、悲しい思い出だから、全体的にゆっくり歌って悲しさを表現したいな。」                  「4番は1番と似ているな。どうしたらいいのかな。同じくらいの強さでいいかな。」</p> </div> <p>4 考えた表現の工夫で歌唱する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>全部歌ってみると、それぞれの場面の表現の違いがよく分かるな。</p>  </div> <p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の気づきの確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二つの演奏を比較させ、気付いたことを話し合わせることで、歌手の思いや意図で表現が変わることに気付けるようにする。</li> <li>○ 導入の演奏や教科書を基に、速さと強弱を表す記号に注目させる。そのうえで、本時はそれらを変化させて表現を工夫していくことを確認することで、学習の見通しがもてるようにする。</li> <li>○ 歌詞を音読しそれぞれの場面の情景を確認したり、歌唱させたりすることで、「赤とんぼ」の詩の内容や曲想を想起できるようにする。</li> <li>○ 「赤とんぼ」は中学校で学習する共通教材でもあるので、小学校では導入段階と捉え、楽曲の全体的な雰囲気を掴むことに留める。</li> <li>○ 表現を考える際は、その根拠を歌詞の内容や情景と結び付けて発言させることで、場面にふさわしい表現の工夫ができるようにする。また、多様な考えを引き出し実際に表現させることで、表現の違いのよさやおもしろさを感じ取ることができるようにする。</li> <li>○ 表現の工夫を、全体で試行錯誤しながら実際に表現し、図の線を確認することで、視覚的にも強弱の変化が捉えられるようにする。また、場面ごとに線の色を変えることで、比較しやすいようにする。</li> <li>○ 「どの歌詞の部分で速さを変化させると、よりよい表現になるか。」と問うことで、速さにも着目した表現の工夫を考えられるようにする。</li> <li>○ 1番から4番までとおして表現させることで、場面ごとの表現の違いのよさやおもしろさを感じ取ることができるようにする。</li> <li>○ 本時のめあての視点で学習の感想を発表させることで、同じ強弱記号でも、場面によって表現が変化することのよさやおもしろさを共有できるようにする。</li> </ul>

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

同じ強弱記号でも、場面によって表現の仕方が少し変わるんだね。気持ちを込めたいところは、速さも変えると場面に合った表現になったよ。

【創意工夫】

